

I. 概要

第1章 市勢概要

第1節 自然的条件

本市は広島県の東南端、瀬戸内海沿岸のほぼ中央部にあり、南北45.7km、東西29.5kmにわたり、面積517.72km²です。

地形は全体的に見ると、平たんな高原やなだらかな丘陵群と比較的広い沖積平野で構成されており、山系は標高200mから600mで、北部に京ノ上山、馬乗山、蛇円山、西部に大谷山、高増山があり、南部には彦山、熊ヶ峰を中心とした小山が連なり、東部は低い丘陵となっています。

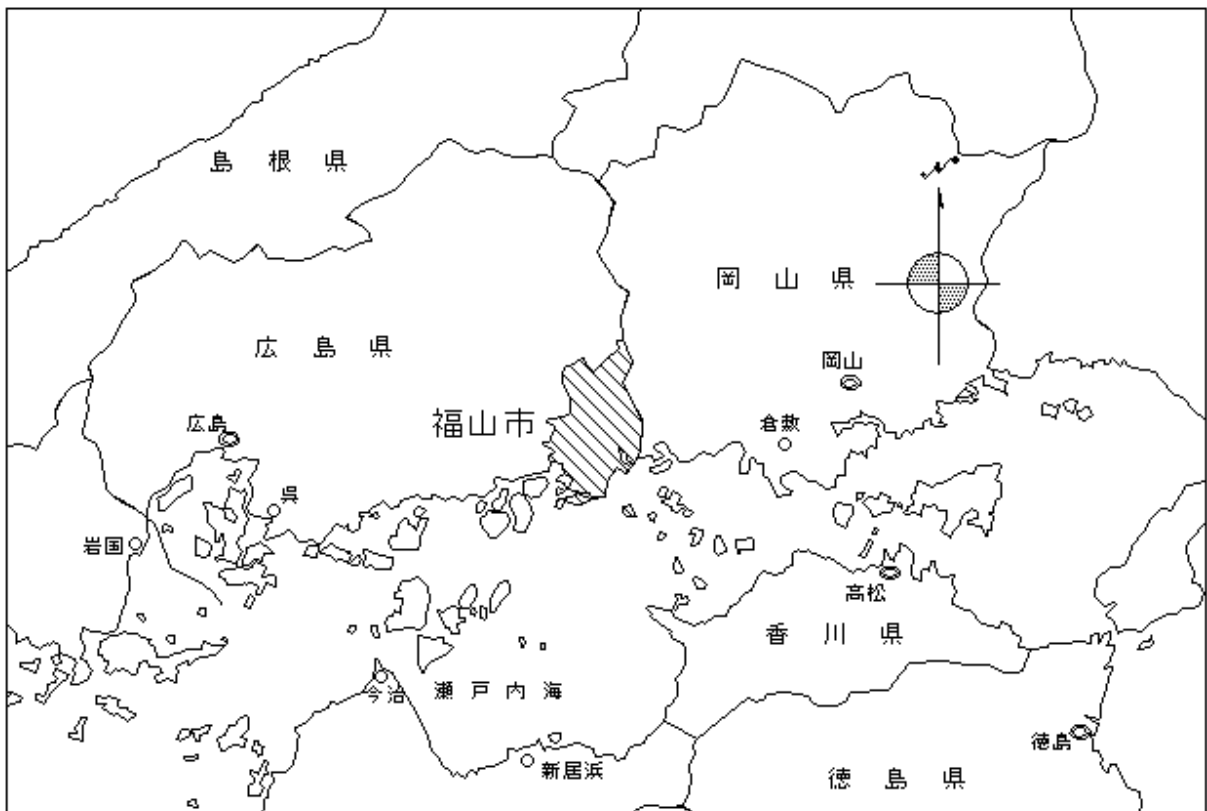
その中央部を流れている一級河川の芦田川は、中国地方有数の河川で、市の東北部及び中部の50余の支流をあわせ、その下流に福山三角洲を形成し、瀬戸内海に注いでいます。

一方、市の西部、南部にも藤井川、山南川などの二級河川をはじめとする多くの中小河川があり、その下流に平地を形成しています。

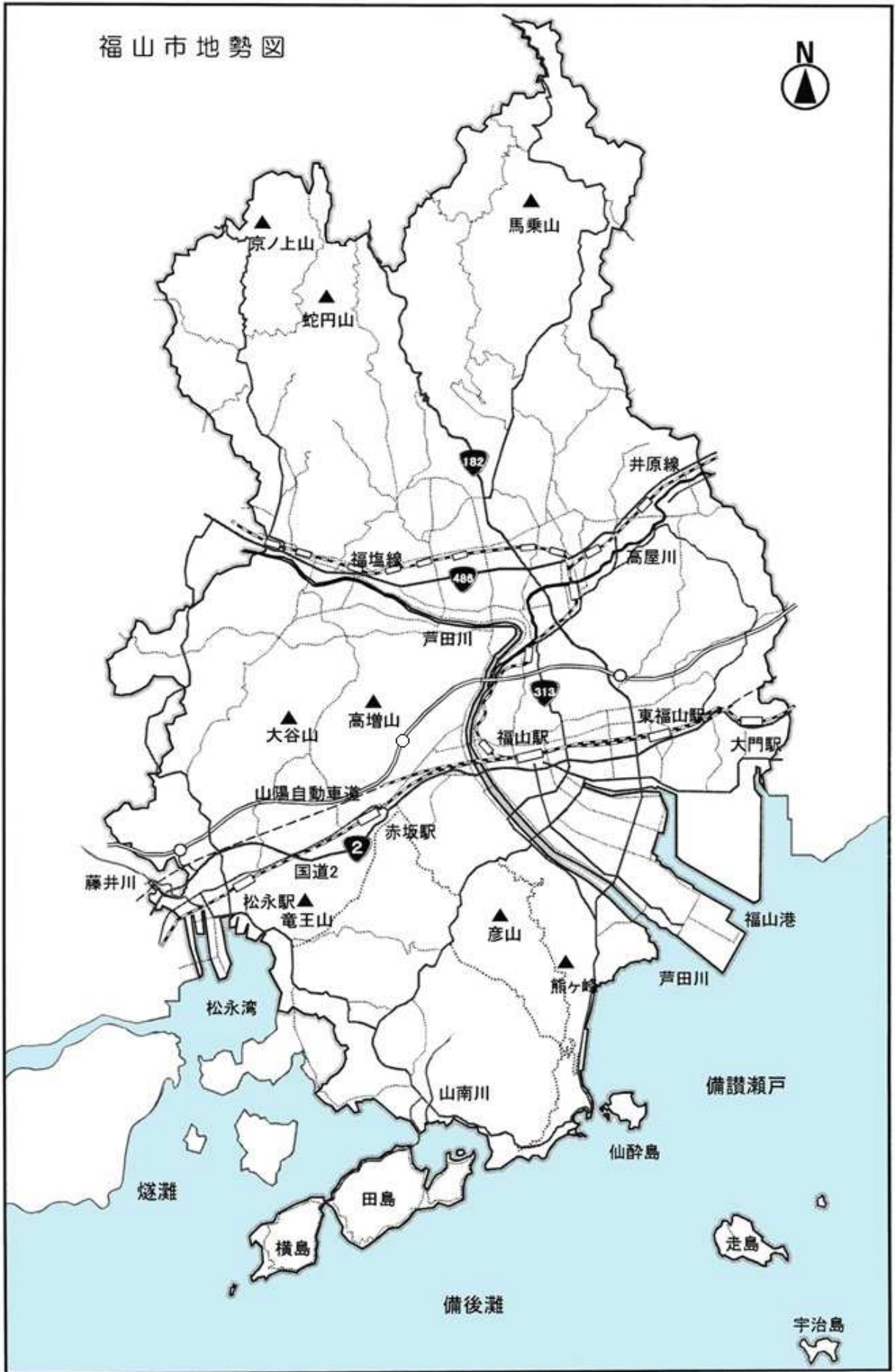
また、南方海上には、仙酔島、走島、宇治島、田島、横島などの島々があります。

気候は、温暖で雨量が少なく、晴天の日が多い瀬戸内海式気候です。

福山市位置図



福山市地勢図



第2節 福山市のあゆみ

本市の歴史は、1619年（元和5年）備後10万石の領主となった水野勝成が、「福山」と命名したのが始まりといわれます。以来、城下町として整備が進められ、今日の福山の礎が築かれました。

1889年（明治22年）の市町村制により福山町となり、地方行政の中心的役割を果たし、1891年（明治24年）山陽鉄道開通などを契機にまちの基盤が形成されました。1916年（大正5年）には市制施行により、人口32,356人の福山市が誕生しました。

1933年（昭和8年）に隣接10か村、1942年（昭和17年）に2か村との合併により市域を拡大。1945年（昭和20年）の戦災で市街地の8割を焼失したものの、その後、めざましい復興を遂げています。1956年（昭和31年）に隣接10か町村と合併し、国道などの基盤整備を進めて、山陰、山陽と四国を結ぶ産業・文化・交通の要衝都市として急速に成長しました。

本市は、古くから地場の繊維産業を基盤とする地方都市でしたが、1961年（昭和36年）の単一工場としては世界最大といわれる製鉄所の立地決定により都市のあり方が大きく変わりました。1964年（昭和39年）には備後地区工業整備特別地域の指定も受け、わが国の経済を担う重工業都市へと転換しました。

1962年（昭和37年）に深安町と、1966年（昭和41年）に松永市と、1974年（昭和49年）に芦田町と、1975年（昭和50年）に加茂町・駅家町と合併を重ね、都市化の進展にあわせて、道路・公園・清掃工場などさまざまな都市機能の整備を進めるとともに、1988年（昭和63年）のふくやま美術館や、1994年（平成6年）のふくやま芸術文化ホール（リーデンローズ）、1995年（平成7年）の緑町公園屋内競技場（ローズアリーナ）、1999年（平成11年）のふくやま文学館、2008年（平成20年）のまなびの館ローズコム、2020年（令和2年）には総合体育館（エフピコアリーナふくやま）の開館、2011年（平成23年）には福山市立大学の開学など、教育・文化・スポーツ面の施設整備も進めてきました。1991年（平成3年）の山陽自動車道（福山東IC～福山西IC）の開通や1993年（平成5年）の新広島空港の開港など高速交通基盤の整備も進展しています。また、2018年（平成30年）7月の西日本豪雨を受けて着手した、国や県と連携した「抜本的な浸水対策」は、2023年度（令和5年度）末に169事業が完了し、市民の安全と安心を確保するための基盤が整備されました。

2022年度（令和4年度）には、福山城築城400年を迎え、天守北側鉄板張りの復元などの福山城の令和の大普請に取り組み、往時の姿を取り戻した福山城を市民の誇りとすることができました。

1993年（平成5年）には福山地方拠点都市地域の指定を受け、さらに1998年（平成10年）4月には中核市へと移行しました。

また、日常生活圏の広がり、広域化と多様化・高度化するニーズに対応すべく2003年（平成15年）には内海町・新市町、2005年（平成17年）には沼隈町、2006年（平成18年）には神辺町と合併しました。本市は、2016年（平成28年）7月1日に市制施行100周年という大きな節目を迎え、今後、さらなる飛躍を遂げるため、備後圏域の連携中枢都市としての責任と役割を果たしながら、全ての市民が心豊かに暮らせる社会の構築をめざしています。

2021年（令和3年）には、これまでの取組による市政への変化を確かな成果につなげるとともに、コロナ時代の新しい社会を見据えた都市づくりを進めるため、「福山みらい創造ビジョン」を策定し、「安心と希望の都市」の実現に向けて取組を進めています。

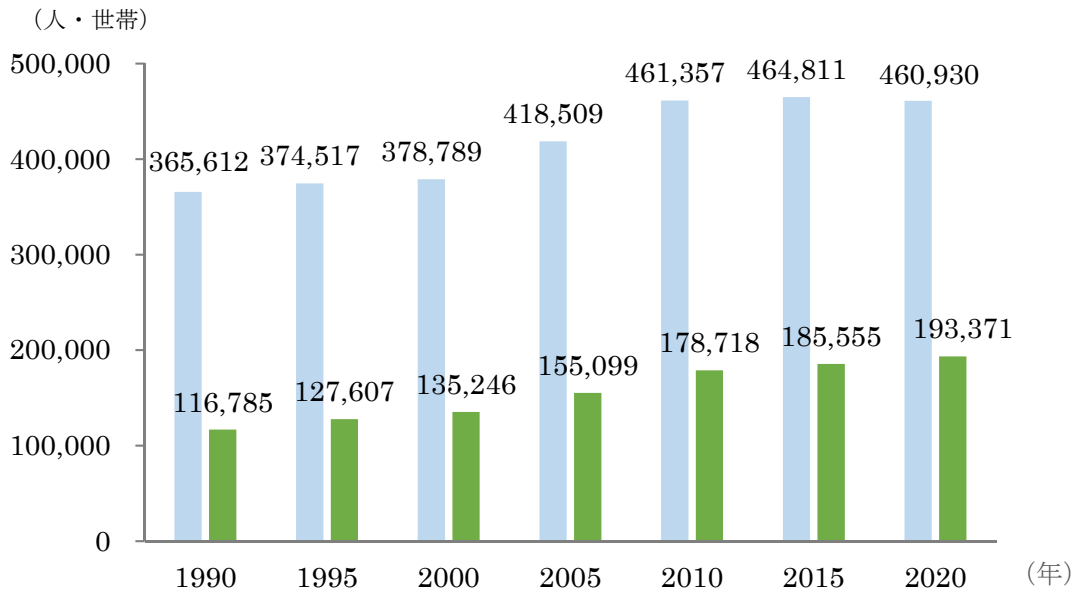
第3節 社会的条件

1 人口・世帯数

本市の2024年（令和6年）3月末現在の人口（住民基本台帳）は、456,265人で、前年度末と比べ2,895人減少しました。世帯数は215,716世帯、人口密度は881人/km² となっています。

本市は、人口において広島県内で第2位の都市となっています。

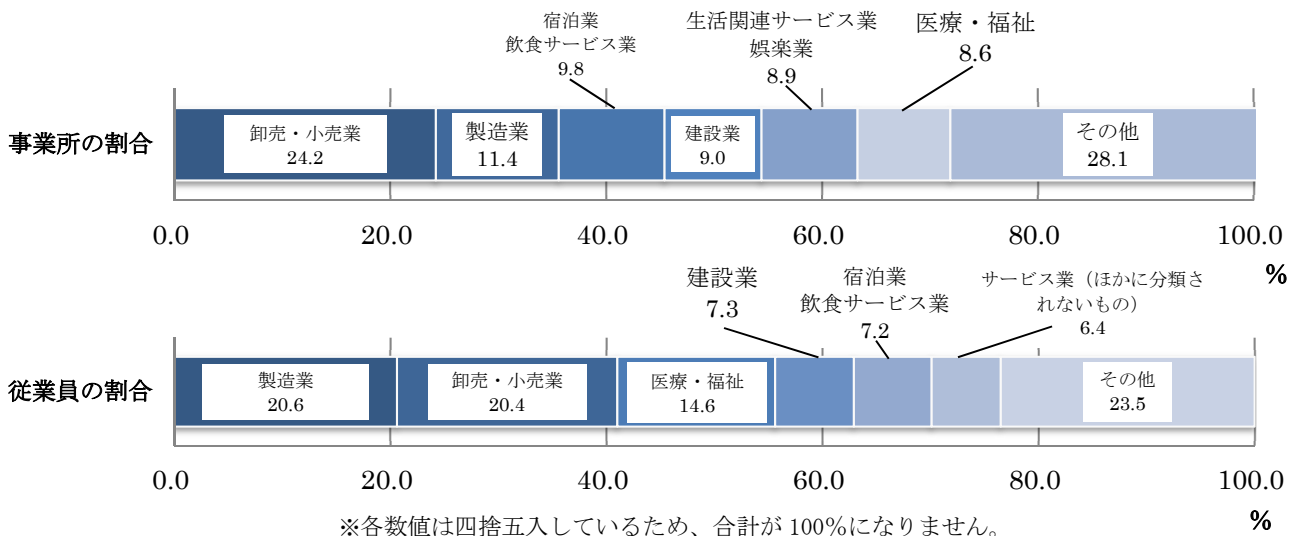
人口・世帯数の推移（国勢調査）



2 産業

(1) 産業（大分類）別事業所数、従業者数

「令和3年経済センサス活動調査結果」では、事業所数20,353か所、従業者数213,285人で、その内訳については、次のとおりです。

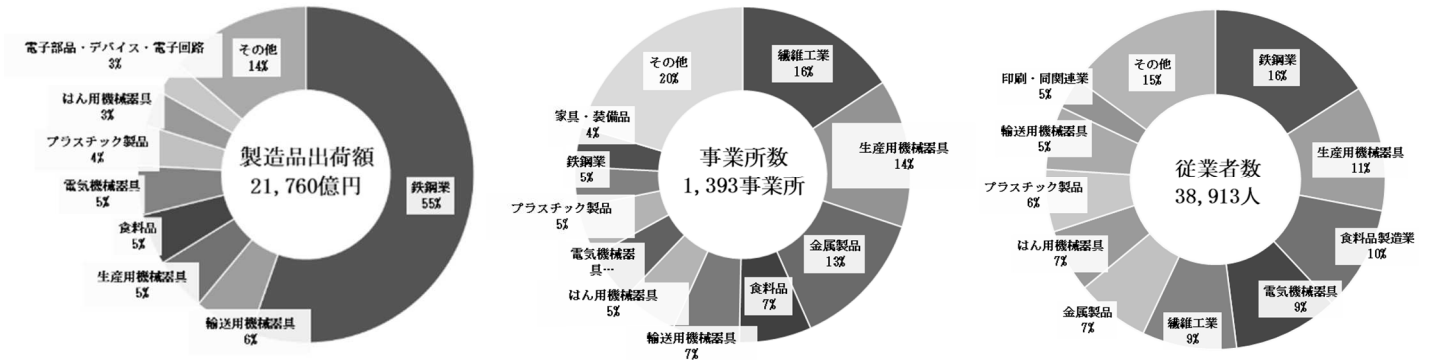


※各数値は四捨五入しているため、合計が100%になりません。

「令和3年経済センサス活動調査結果」（総務省統計局）
<https://www.stat.go.jp/data/e-census/2021/kekka/index.html> 参照

(2) 製造品出荷額等

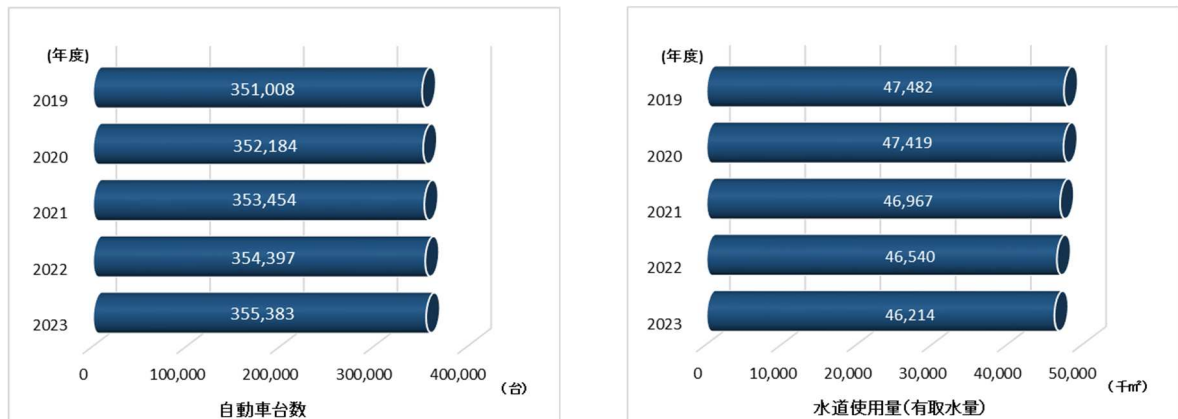
2022年（令和4年）の経済構造実態調査による製造品出荷額等、事業所数、従業者数については、次のとおりです。



製造品出荷額、事業所数、従業者数

(3) その他の指標

過去5年間の水道使用量、自動車台数については、次のとおりです。

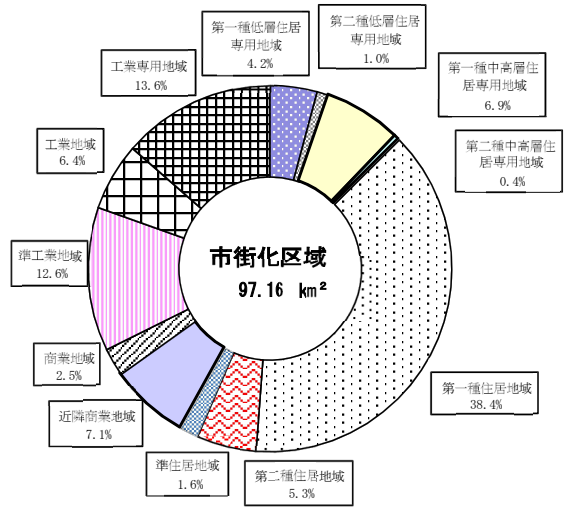


3 都市計画

2024年（令和6年）3月末現在の本市の都市計画区域は、335.79km²となっています。市街化区域においては、住居系区域56.19km²（57.8%）、商業系区域9.29km²（9.6%）、工業系区域31.68km²（32.6%）で用途地域が指定されています。

都市計画区域別面積 2024.3.31現在

区 分		面積(km ²)
行政区域		517.72
都市計画区域		335.79
土地利用	市街化区域 (用途区域)	97.16
	市街化調整区域	238.63



用途地域別面積 (2024.3.31現在)